

坂本龍馬との語らい

間違いなく日本を代表する偉人の一人である。江戸時代の末期、土佐国（高知市）に生まれた坂本龍馬。わずか 33 歳の生涯であったが、近代日本の幕開けに大いなる貢献をした英雄である。高知市の桂浜の丘の上に、遙か太平洋の彼方を見つめる坂本龍馬像は立っていた。総高 13.5m の堂々たる姿であった。暫し龍馬の精悍な顔を見つめつつ彼の人生に思いを馳せてみた。

同じ人間として生まれても大半の人が歴史に名を残すことなく人生を終わっている。私もこの年になってみるとその内の一人であることがよく分かる。ここに立つ日本の歴史上永遠に残る、坂本龍馬とはどのような人物であったのだろうか。

彼は土佐藩郷士（下級武士）坂本八平直足の次男として 1835（天保 6）年に誕生。商家出身の坂本家であったが、多額の財産分与により非常に裕福な家庭に育ったようだ。龍馬が大事を成し遂げた理由の一つは、やはり当時の政治経済の中心であった江戸までたびたび遊学したことだと思う。そして重要人物に会うなどの全国各地を回る行動力に全てがあったように思う。

徳川幕府は 265 年続いた。その終焉はペリー率いる外国の要求を拒絶する力も弱まり、全国諸藩への求心力も弱体化していた。そうした時代・社会背景の流れを的確に感じ取った龍馬は、貿易会社と政治組織を兼ねた亀山社中・海援隊の結成。そして江戸幕府を倒すために薩摩、長州藩の同盟を成功させる。その結果、江戸幕府は倒れ日本は歴史的な大転換となる大政奉還に至ったのであった。

龍馬に関する逸話は数々残されているが、その中で私の好きな彼の名言・格言の一端を紹介しよう。

「男子は生あるかぎり、理想を持ち、理想に一步でも近づくべく坂を上るべきである」。また「人として生まれたからには、太平洋のように、でっかい夢を持つべきだ」と。

残された人生をいかに生きるべきか悩んでいた私に、龍馬は語り掛けるように答えてくれた。

「自分らしく精一杯頑張り続けられれば、それでいいのではないのでしょうか」

「自分らしく精一杯頑張り続けられれば、それでいいのではないのでしょうか」

撮影 2014 年春

